

III 要 文 約

1. 天然親魚の捕獲方法は捕獲後のスレやキズの快復状態、歩留りの点で釣（底延組）による採捕が最も望ましい。
2. 産卵期中途の4月15日に親魚が全滅した。斃死魚の腹腔内には例外なく孢子虫類の寄生がみられ、これが親魚の斃死について影響をおよぼしたものとみられる。
3. ハマフェフキは水温が22.0℃以上になると産卵が行なわれる。
4. 産卵は2月8日から始まり、親魚の斃死事故がおこる4日前の4月11日まで確認した。その間の総採卵量は3,060,000粒（浮上卵数2,109,000粒）浮上卵率平均は68.9%であった。産卵時刻は日没後の19時から21時の間と考えられた。
5. ふ化率は平均82.6%であった。ふ化に要する時間は水温19.5～21.5℃で37～41時間であった。また、正常にふ化するためには比重（ σ_{15} ）22.19以上は必要であることが分かった。
6. 初期餌料としてワムシとカキ sp.（石垣島宮良湾産）受精卵を投与して、飼育試験を行なったところ、ワムシ区の方はふ化後15日までに20%の生残率であった。カキ sp. 区はふ化後35日目まで継続飼育を行ない、仔魚の大きさと摂餌量（消化管内容物）について餌料種類別に明らかにした。
7. カキ sp. 受精卵投与期間中の飼育水にグリーンを添加する必要は特に認められなかった。
8. 0.5 tおよび1 tパンライト水槽を使用して、19,200～27,000 匹/tの収容密度で35日間飼育した結果、488～890 匹/0.5 t、1,651～3,502 匹/1tの生産尾数となり歩留りは5.0～11.3%であった。ふ化後4～8日目の間に44～74%の大量斃死が生じた。
9. 稚魚期（ふ化後35～60日目）の飼育は短期間でもテグリオパスを併用投餌した方が歩留り、成長とも良い結果であった。

IV 残 され た 問 題 点

1. 親魚養成中の斃死事故防止（斃死の原因究明と寄生虫対策）
2. ふ化後5～8日目における第一減耗期の歩留り向上の検討
3. ふ化後30日目前後における仔魚の沈下現象の原因究明